
6 品目別調査結果 米

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

1. 概況

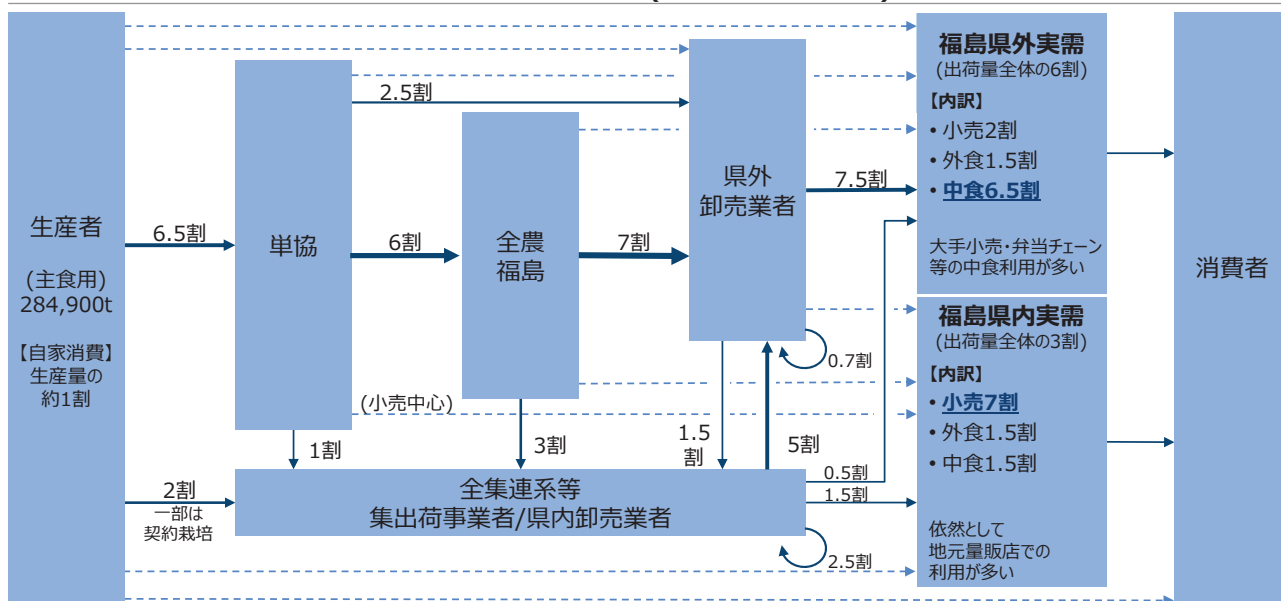
191

調査結果概要（1/5）

1. 各取引段階の“量”の変化

- 福島県産米は震災前から業務用需要が一定量存在したが、震災後は量販店・小売店の販売分が減り、業務用需要が拡大。
- その後、小売業者・加工業者(中食業者)・外食業者ともに取扱いを開始・拡大した事業者は複数存在するが、全体の構成比に大きな変化はない。

福島県産米の流通構造(平成29～令和3年産)



データ出所：福島県「県産米流通状況調査報告書」、全農福島データ、農林水産省統計、ヒアリング結果等を元に推計

192

1. 各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産米の生産量は、平成23年産は対前年比約2割減少し、平成27年産以降は横ばいの傾向にあったが、令和3年産は約10%・令和4年産は約6%の減少となっている。平成25年産以降、飼料用米等の主食用以外の割合が増加し令和4年産では生産量の約1割を占める。
- 令和3年産の会津産・中通り産・浜通り産コシヒカリの出荷量は、それぞれ震災前の約78%、102%、23%程度となっている。また、震災後ひとめぼれは減少したが、天のつばは近年増加している。
- 福島県産米の出荷先について、平成23年産以降、福島県内・大消費地に集中する傾向が強まっている。

卸売段階

- 令和3年産の米穀販売業者の福島県産米仕入れは、東日本(特に首都圏・福島県)、中部や関西圏が中心となっている。
 - 小売向け、業務用向けとも、卸売業者が産地側～実需側との密接な連携を促進し、震災前や震災直後からの継続的な取扱いがある事例も存在する。

実需段階

- 小売業者においては、震災直後に取扱いを中止する事業者も存在したが、ヒアリングでは震災後に取扱いを開始・再開した事例も存在し、少しずつではあるが、小売業者における販売も回復傾向にある。
- 全国における業務用途で使用される米の割合は前年より2ポイント増加。福島県産米については、業務用途として使用される割合が前年より1ポイント増加し、その分家庭内食向け割合が減少した。

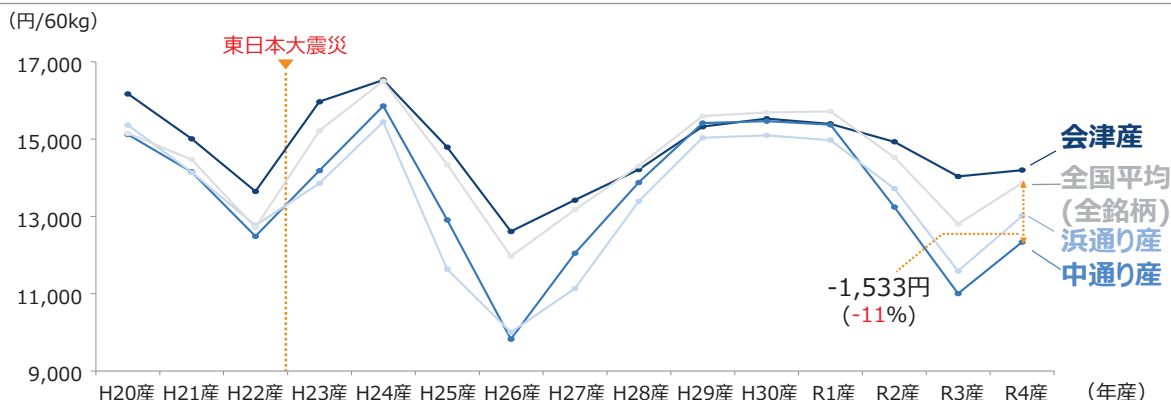
193

2. 各取引段階の“価格”の変化

相場価格
の変化

- コメは保存性が高く、年間を通じて他県産と競合しやすい特性があり、震災後、全国平均と価格差が生じるようになった。
- 中通り産コシヒカリと全国平均（全銘柄）との価格差は、平成27年産以降縮小傾向であったが、令和元年産以降に拡大、令和4年産では1,533円の価格差が生じている。
 - 会津産コシヒカリは、令和4年産において全国平均価格をわずかに上回っている。

会津産・中通り産・浜通り産コシヒカリと全国平均の相対取引価格推移



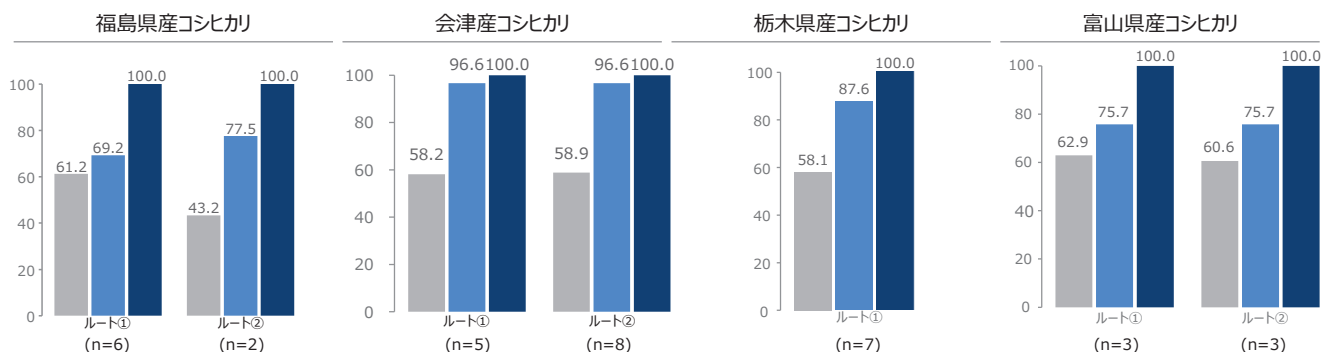
データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
※令和4年産は出荷日から令和4年11月までの平均価格。

194

2. 各取引段階の“価格”の変化

個別事例 における状況

- 各流通段階ごとの価格形成状況の追跡調査を行ったところ、流通ルート(産地側の出荷ルートが、「ルート①：全農福島を経由」、「ルート②：各単協が直販または民間の集出荷業者が販売」のいずれか)別では、福島県産と競合他県産で小売価格を100とした場合の比率に大きな差は見られない。
- 年間を通して卸売業者の買取価格（産地収入）に大きな変動はなく、収穫時期に通年での価格を決めるケースが多い。
 - 卸売販売価格は年間での米価変動や保管料も踏まえて価格設定がされており、採算が取れないほどの大幅な米価変動がない限り販売価格に変動はないとのこと。
 - 特に量販店ではある程度の量を確保する必要があり、収穫時期より前の段階で全量の8割の仕入量で複数年契約を締結する動きが主流である。



※数値は小売販売価格を100とした場合の各段階における販売価格(指数値)。産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。
 ※福島県産コシヒカリ・富山県産コシヒカリの追跡調査ルート数(n)が少ないため、参考値として掲載している。
 ※会津産コシヒカリの調査では、卸売販売価格が小売販売価格とほぼ変わらない特殊な事例を含む。
 ※福島県産コシヒカリは「中通り産」「浜通り産」を主とする。

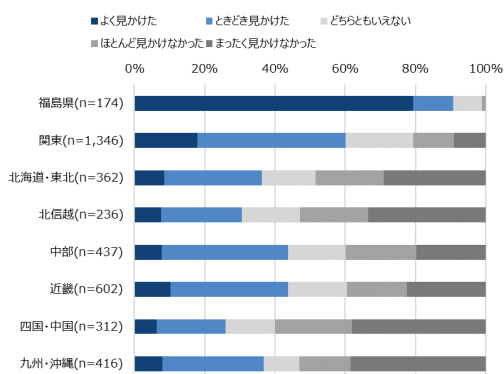
■ 産地収入 ■ 卸売販売価格 ■ 小売販売価格 195

3. 福島県産品に対する認識

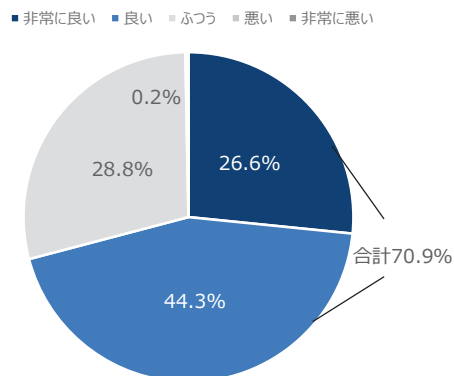
消費者の 反応

- 福島県産米を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県で高く、他の地域では20%に満たなかった。
- 福島県産米を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では22.7%であった。
 - 福島県産米は、福島県内と首都圏への流通が多い傾向にあるためである。
- 福島県産に限らず、米購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「産地」と「ブランド・商品名」があがった。
- 福島県産米の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が70.9%であった。

福島県産米を店頭で見た割合



福島県産米購買者の評価 (n=1,246)



2. 調査実施概要

197

調査の全体像

概要調査として行政機関の統計データ等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	- 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 - 生産量、出荷量等については、競合県産品との比較分析を行う。	消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。	- 訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 - 競合県産の同品目についても調査の上比較分析を行う。
調査対象	- 行政機関の統計データ。 - 小売業者のPOSデータ。	全国の消費者。(5,500人)	- 令和3年産米。 - 福島県産米の他、競合産地として栃木県産米と富山県産米についてもデータを収集。
調査内容	- 福島県産米の生産量。 - 福島県産米及び競合県産米の相対取引価格。 - 小売業者における産地品種銘柄別の販売価格等の変化。	- 福島県産米の視認経験。 - 福島県産米の購買経験。 - 米購買時の重視点。 - 福島県産米の評価。	流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	各取引段階の“量”の変化	福島県産品に対する認識	各取引段階の“価格”の変化
	各取引段階の“価格”の変化		

198

福島県産米は生産段階～卸売段階と卸売段階～実需段階で銘柄呼称が変わるため、下記のとおり事業者の取扱実態に即して記載する。

品種	生産～卸売段階の呼称	卸売～実需段階の呼称
コシヒカリ	・ 会津産コシヒカリ	・ 会津産コシヒカリ
	・ 中通り産コシヒカリ	・ 福島県産コシヒカリ
	・ 浜通り産コシヒカリ	※両銘柄がブレンドされているケース、片方のみのケースの両方が存在。 ※一部「あさか舞」や「いわきライキ」等の地域オリジナルブランドを含む。
ひとめぼれ	・ 福島県産ひとめぼれ	・ 福島県産ひとめぼれ
天のつづ	・ 福島県産天のつづ	・ 福島県産天のつづ

収集・分析したデータ

各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。また、アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査 使用データ	・ 公知データ ・ 作物統計(農林水産省) ・ 東北農林水産統計年報(東北農政局) ・ 県産米流通状況調査報告書(福島県) ・ 米に関するマンスリーレポート(農林水産省) ・ 相対取引価格データ(農林水産省) ・ 事業者データ ・ 米穀契約実績データ(JA全農福島) ・ スーパーマーケットのPOSデータ ・ 各事業者から入手した仕入・販売データ※ 等
アンケート 調査	・ 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。 ・ 5,500件を回収し、分析に使用した。
追跡調査	・ 県内 J A 全農を経由して流通するルート：14ルート。 ・ 10ルートは他県産の価格も収集。 ・ 県内 J A 単協・集出荷業者等を経由して流通するルート：15ルート。 ・ 3ルートは他県産の価格も収集。

※追跡調査では個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から価格データを受領。

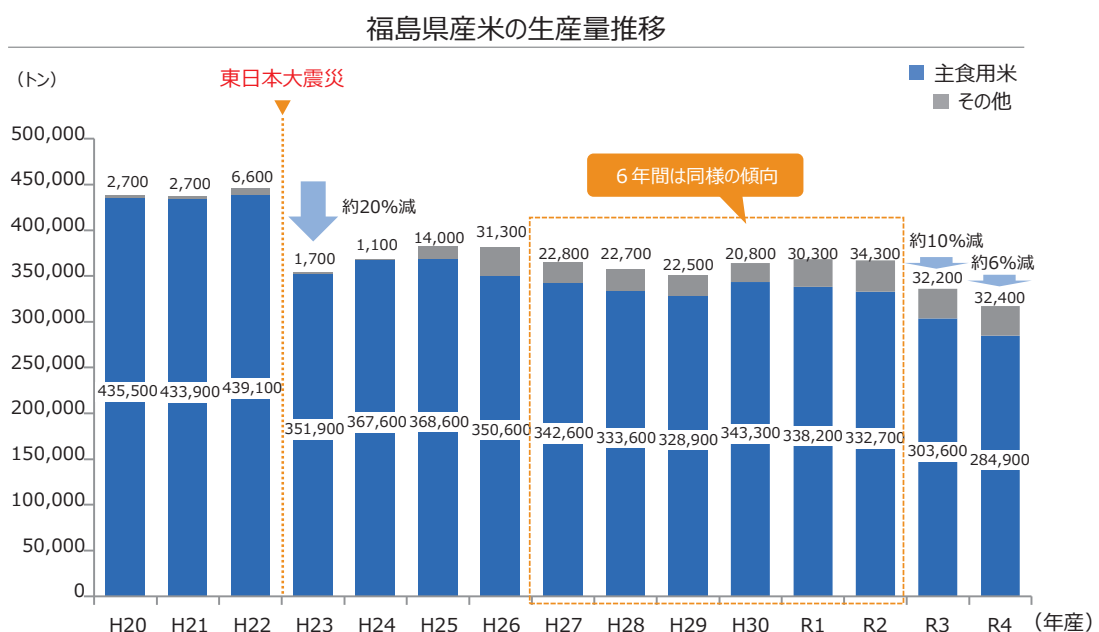
3. 各取引段階の“量”の変化

201

福島県産米の生産量の推移

出荷段階 → 卸売段階 → 実需段階 → 消費者段階

福島県産米の生産量は、平成23年産は対前年比約2割減少し、平成27年産以降は横ばいの傾向にあったが、飼料米等への転換により、令和3年産は約10%、令和4年産は約6%の減少となっている。平成25年産以降、加工用米等の主食用以外の割合が増加し、令和4年産では生産量の約1割を占める。

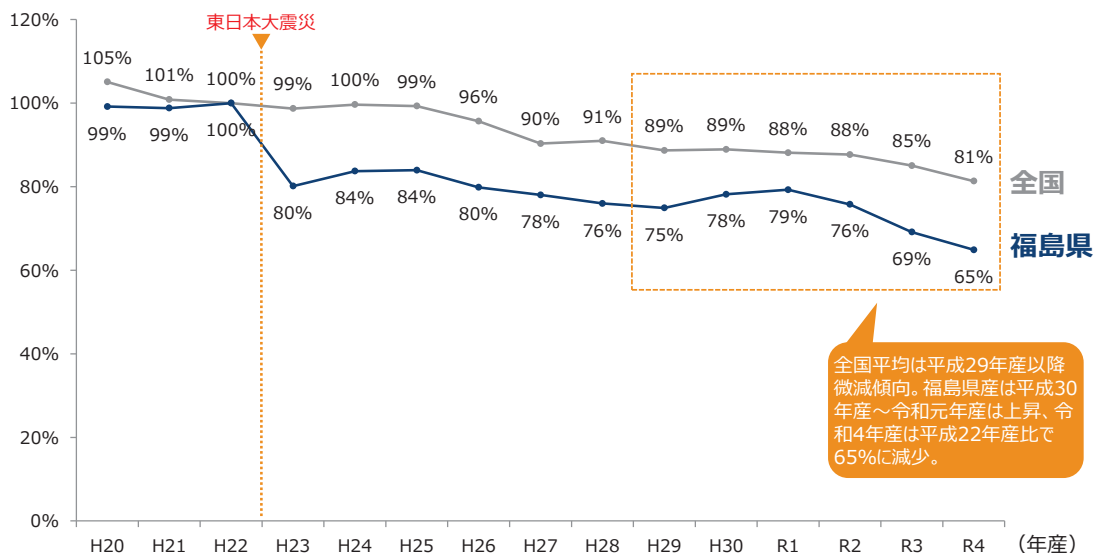


※水稻の収穫量の数値。生産量には「飼料用米」は含まない。
データ出所：農林水産省「作物統計」

202

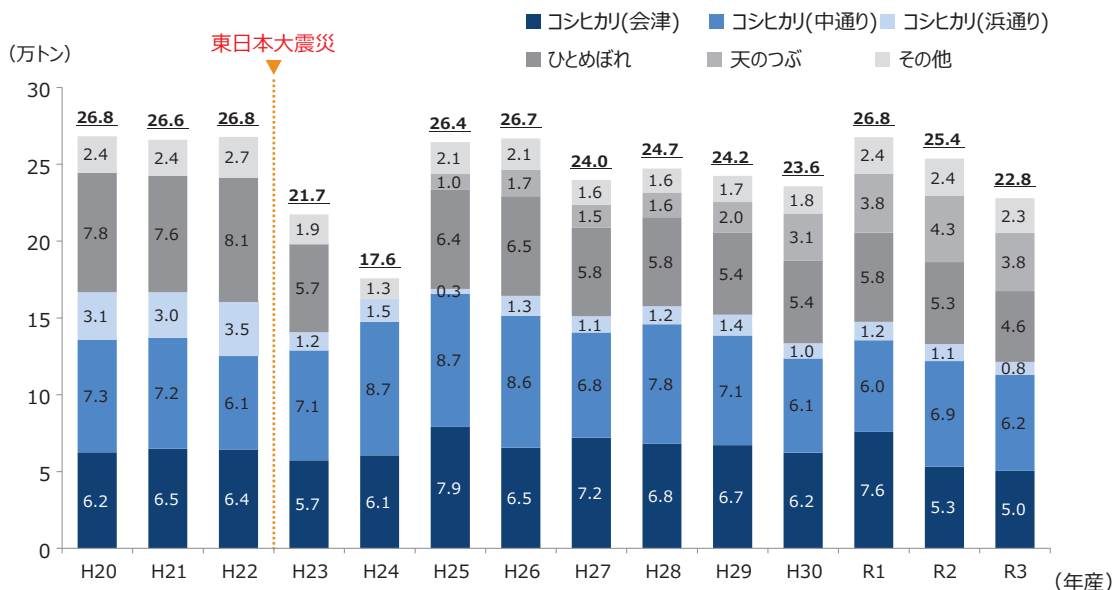
福島県の主食用米の生産量は、震災前は安定的に推移。震災直後の平成23年産で約20%減少した。その後平成30年産～令和元年産で増加したが、令和4年産は平成22年産比65%に減少した。

全国・福島県における主食用米の生産量の推移



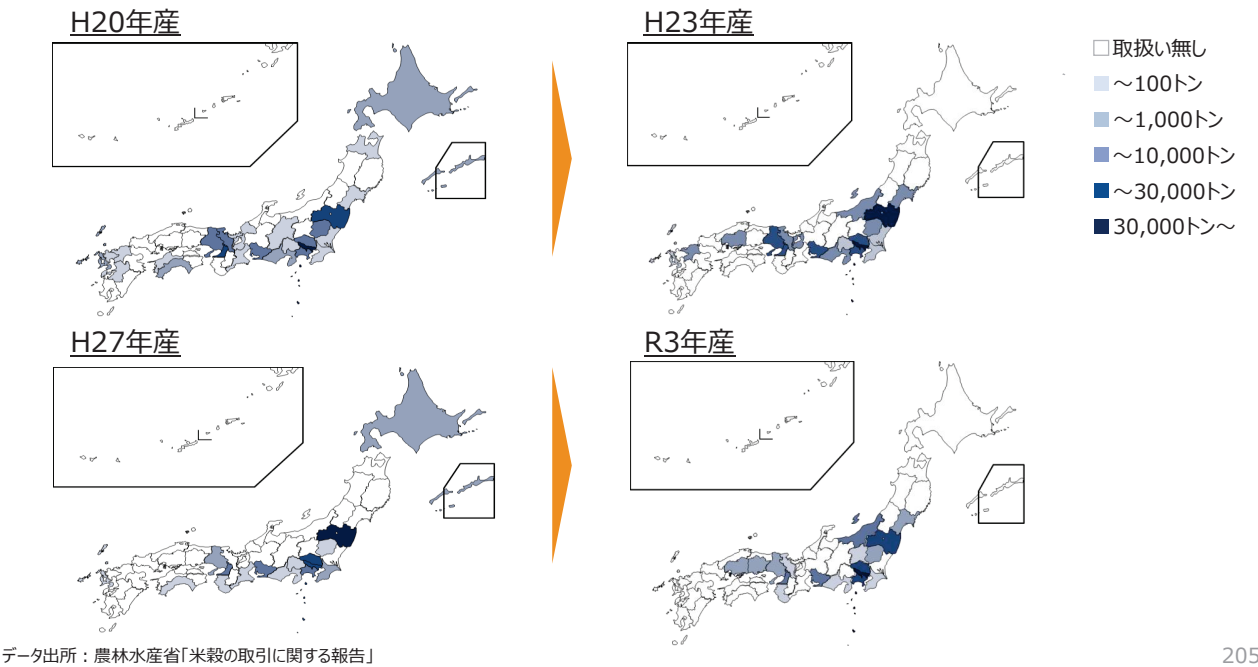
令和3年産の会津産・中通り産・浜通り産コシヒカリの出荷量は、それぞれ震災前の約78%、102%、23%程度となっている。また、震災後ひとめぼれは減少したが、天のつづは近年増加している。

産地品種銘柄別検査数量



卸売業者における福島県産米の引受地(工場・倉庫所在地)は、震災前は全国に存在。平成23年産以降、福島県内・大消費地に集中する傾向が強まっている。

卸売業者の引受先推移(年間50,000トン以上を取り扱う卸売業者仕入分)



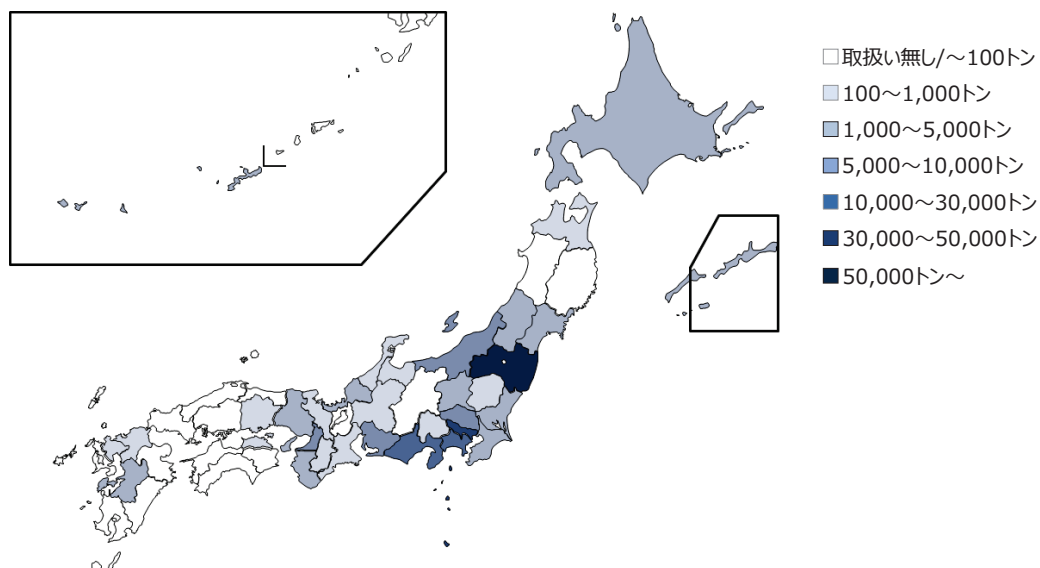
福島県産米を取り扱う米穀販売業者の全体像

		米穀取扱規模(全体)	主な仕入先	主な販売先	特徴
大規模	全国卸	・10～50万トン(10社) ・5～10万トン(10社)	・全農 ・JA ・卸売業者	・大手小売業者 ・大手中食・外食業者 ・卸売業者 ・加工業者	・精米工場は拠点と消費地にのみ保有 ・地方の卸売業者に委託精米の形での転送も多い ・一般的には全農からの仕入れが多いが、福島県産は一部を除き少ない
	農協系卸	・1～30万トン	・全農が大半 ・JA	・中堅/地元小売業者 ・生協・給食 ・地元中食・外食業者	・輸入米の取扱いが少ない ・他の卸の委託精米も行う
	商社	・5～10万トン	・全農 ・JA ・卸売業者	・グループ内企業 ・中堅～大手中食・外食業者	・系列企業向けの販売が多い ・精米工場を持たず、系列の卸売業者の精米工場などで精米して販売
	商社系卸	・5～10万トン	・全農 ・JA	・大手小売業者 ・中堅～大手中食・外食業者	・系列の商社とは別の販売ルートも保有 ・一部商社の委託精米も行う
中規模	県内卸(全集連系)	・5,000～数万トン	・生産者 ・集荷業者	・地元小売業者 ・消費地卸売業者	・精米設備を保有し、地元の実需向けの精米販売を行う ・消費地など他地域の卸売事業者への玄米販売も行う
	県内卸(その他)	・5,000～数万トン	・生産者 ・全農 ・集荷業者 ・提携/系列卸売業者	・消費地実需 ・地元 ・系列卸売業者	・比較的大規模な精米設備を有し、委託精米も積極的に行う ・玄米の取引は提携/系列卸売業者が中心
	県外地域卸	・1～5万トン	・全農 ・卸売業者	・地元小売業者 ・米穀小売店	・系列に商社機能を担う会社を持つこともある ・地元の米穀店と密接なつながりを持つ
小規模	集荷業者	・～1万トン	・生産者	・卸売業者	・県内の事業者で、精米機能や保管庫を持っており卸売機能を保つ場合もある
	米穀店	・～1万トン	・卸売業者	・消費者 ・地元の個店外食業者	・外食向けの販売の割合が高い ・比較的高価格帯の取扱が多い

データ出所：ヒアリング結果、農林水産省「生産者に有利な流通・加工構造の確立に向けて」

令和3年産の米穀販売業者の福島県産米仕入れは、東日本(特に首都圏・福島県)、中部や関西圏が中心となっている。

都道府県別米穀販売業者の福島県産米仕入量(令和3年産米)



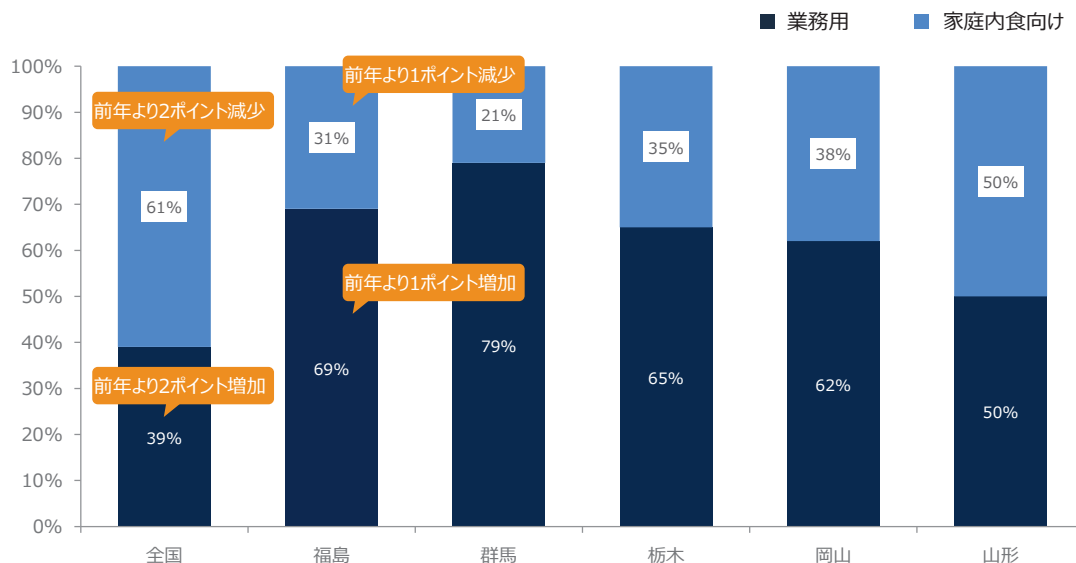
データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 ※年間4,000 t 以上を仕入れる販売業者における令和4年6月までの数値。
 ※生産者からの仕入分を除いた分で集計。

207

福島県産米の用途

全国における業務用途で使用される米の割合は前年より2ポイント増加。福島県産米については、業務用途として使用される割合が前年より1ポイント増加し、その分家庭内食向け割合が減少した。

産地別の業務用米使用割合(上位5県)



データ出所：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」
 ※期間は令和3年7月から令和4年6月までの1年間。
 ※年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が精米販売を行った数量のうち、中食・外食向けに販売した数量を業務用米とする

208

4. 各取引段階の“価格”の変化

209

米の価格形成メカニズム

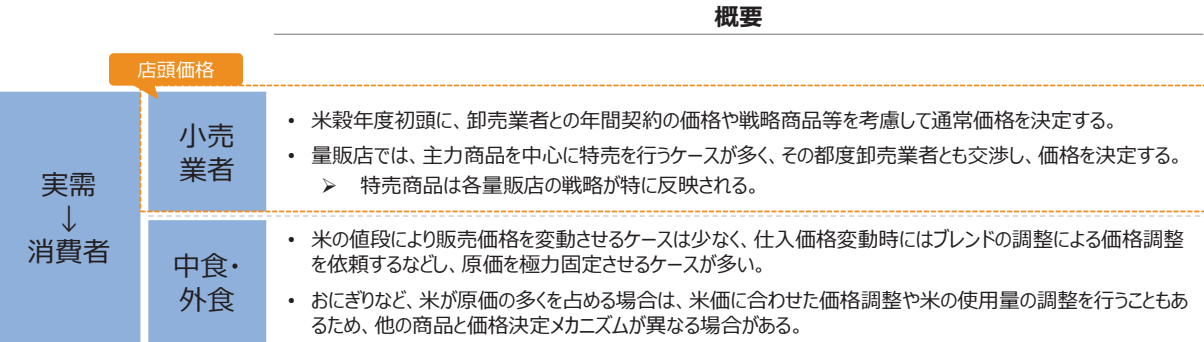
各取引段階における米の価格は各事業者間の交渉による相対取引が基本。米全体の価格変動や各産地品種銘柄の“ポジション”により相場が形成される。そのポジションの指標となるのが農林水産省発表の「相対取引価格」である。

概要					
生産者 ↓ 集出荷団体 相対取引価格	- 全農は、9月上旬を目途に、都道府県ごとに概算金のおおよその額を決定する。概算金の額は、米の予想流通量・集荷希望量・他県産との位置づけを加味して各都道府県の「ランク」で相対的な価格を設定。 - 各単協は、各全農の示す概算金の額を基準に微調整を実施。または、相場予想により買取の金額を決定。 - 各集荷業者は、各地域における概算金額や単協・他社の買取金額を基準に、買取価格を提示。 - 他の事業者と競合する地域から集荷する場合や絶対に必要な場合は上乗せするケースも存在。				
集出荷団体 ↓ 卸売業者	- 全農は流通経費を考慮し、「販売したい金額」として全農相対基準価格を設定。 - 各集出荷団体は、年間契約分について販売量も考慮しつつ全農相対基準価格を参考に販売価格を決定。 - 引取形式(自社引取・配送)や保管期間なども考慮して価格を調整する。 - スポット販売分については、全体の需給及び当該産地品種銘柄の需給状況を考慮しつつ、日本農産情報、クリスタルライス等のデータも参考にして、随時取引価格を形成。				
卸売業者 ↓ 実需	<table><tr><td>店頭 販売用</td><td> - 米穀年度初頭に、全農相対基準価格・農林水産省発表の相対価格や仕入価格(自社集荷の場合は集荷金額)など相場情報を参考に価格を決定し、年間契約を行う。 - 特売により販売量を増やせるため、供給過剰・在庫過剰時は価格を下げて販売することもある。 - 同一店舗においても、銘柄ごとに供給の可否や価格を加味して複数事業者が納品しているケースは多い。 </td></tr><tr><td>業務用</td><td> - 単一銘柄やブレンド比率を指定して年間量を定めた上で実需側が発注する場合、相場価格等を参考に年間販売価格を決定する。 - 実需側が希望価格を提示する場合、卸売業者が価格と希望する食味に応じてブレンドを調整して提案する。 - 数ヶ月単位でコンペ形式により取引先の決定が行われるケースが多く、その場合価格が訴求要因となる。 </td></tr></table>	店頭 販売用	- 米穀年度初頭に、全農相対基準価格・農林水産省発表の相対価格や仕入価格(自社集荷の場合は集荷金額)など相場情報を参考に価格を決定し、年間契約を行う。 - 特売により販売量を増やせるため、供給過剰・在庫過剰時は価格を下げて販売することもある。 - 同一店舗においても、銘柄ごとに供給の可否や価格を加味して複数事業者が納品しているケースは多い。	業務用	- 単一銘柄やブレンド比率を指定して年間量を定めた上で実需側が発注する場合、相場価格等を参考に年間販売価格を決定する。 - 実需側が希望価格を提示する場合、卸売業者が価格と希望する食味に応じてブレンドを調整して提案する。 - 数ヶ月単位でコンペ形式により取引先の決定が行われるケースが多く、その場合価格が訴求要因となる。
店頭 販売用	- 米穀年度初頭に、全農相対基準価格・農林水産省発表の相対価格や仕入価格(自社集荷の場合は集荷金額)など相場情報を参考に価格を決定し、年間契約を行う。 - 特売により販売量を増やせるため、供給過剰・在庫過剰時は価格を下げて販売することもある。 - 同一店舗においても、銘柄ごとに供給の可否や価格を加味して複数事業者が納品しているケースは多い。				
業務用	- 単一銘柄やブレンド比率を指定して年間量を定めた上で実需側が発注する場合、相場価格等を参考に年間販売価格を決定する。 - 実需側が希望価格を提示する場合、卸売業者が価格と希望する食味に応じてブレンドを調整して提案する。 - 数ヶ月単位でコンペ形式により取引先の決定が行われるケースが多く、その場合価格が訴求要因となる。				

データ出所：ヒアリング結果

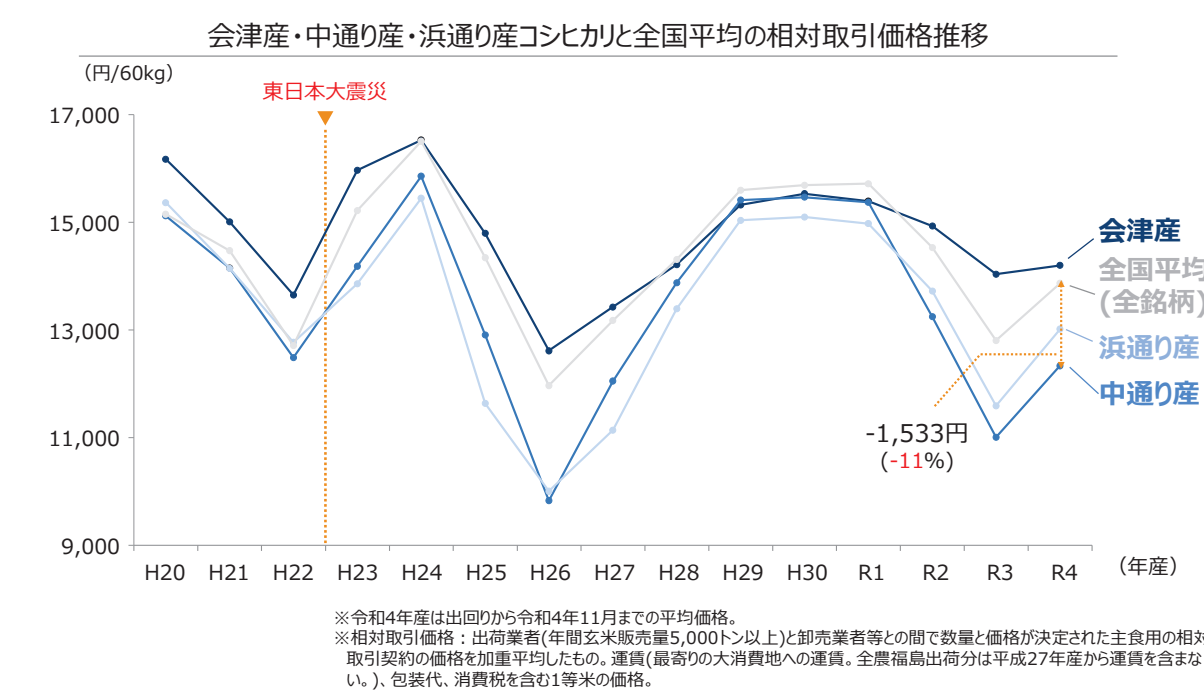
210

特に量販店では、集客目的で戦略的に米の特売を行うケースが多く、消費者が目にする店頭価格は、卸売業者からの仕入価格や通常価格とは必ずしも連動しない。



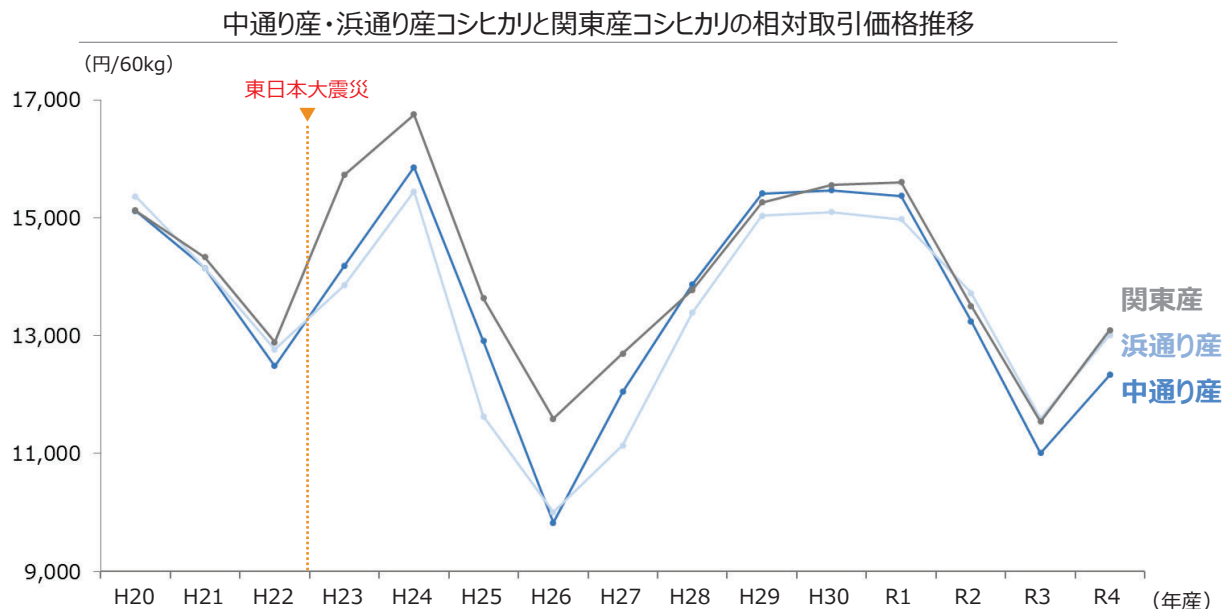
福島県産米の相対取引価格動向 ①全国平均との比較

中通り産コシヒカリと全国平均（全銘柄）との価格差は、平成27年産以降縮小傾向であったが、令和元年産以降に拡大、令和4年産では1,533円の価格差が生じている。また会津産コシヒカリは、令和2年産以降全国平均価格を上回っている。



福島県産米の相対取引価格動向 ②関東産コシヒカリとの比較

中通り産・浜通り産コシヒカリと関東産コシヒカリとの価格差は、平成27年産～平成29年産において縮小傾向が見られた。令和4年産においては、浜通り産は関東産コシヒカリとほぼ同じ位置におり、中通り産は下位に位置している。

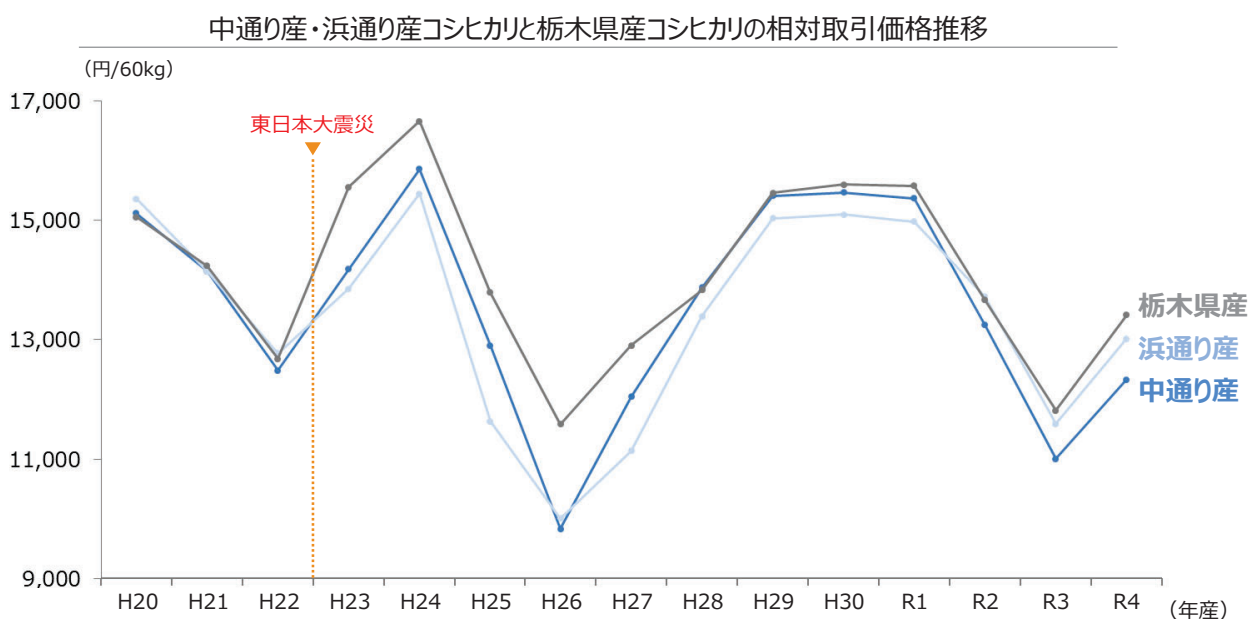


※令和4年産は出回りから令和4年11月までの平均価格。
 ※関東産コシヒカリの価格は茨城県・栃木県・千葉県産コシヒカリの価格を加重平均した値。
 データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

213

福島県産米の相対取引価格動向 ③栃木県産コシヒカリとの比較

中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションとほとんど同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。平成26年産以降は差が縮小傾向にあるものの、未だに栃木県産コシヒカリの下位に位置している。



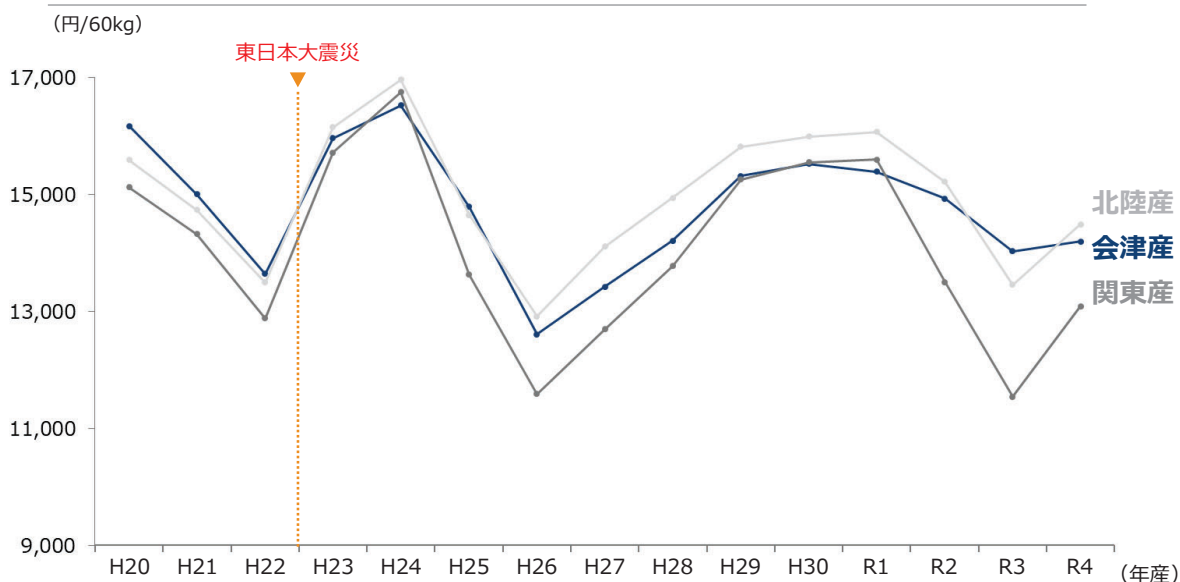
※令和4年産は出回りから令和4年11月までの平均価格。
 データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

214

福島県産米の相対取引価格動向 ④北陸産・関東産コシヒカリとの比較

会津産コシヒカリは、震災後北陸産コシヒカリと価格ポジションが逆転し、平成26年産以降は北陸産より下位に位置している。令和3年産は北陸産より上位になったが、令和4年産は再び北陸産より下位に位置している。また、関東産よりは概ね上位に位置している。

会津産コシヒカリと北陸産・関東産コシヒカリの相対取引価格推移



※令和4年産は出回りから令和4年11月までの平均価格。
 ※北陸産コシヒカリの価格は石川県・富山県・福井県産コシヒカリの価格を加重平均した値。
 ※関東産コシヒカリの価格は茨城県・栃木県・千葉県産コシヒカリの価格を加重平均した値。

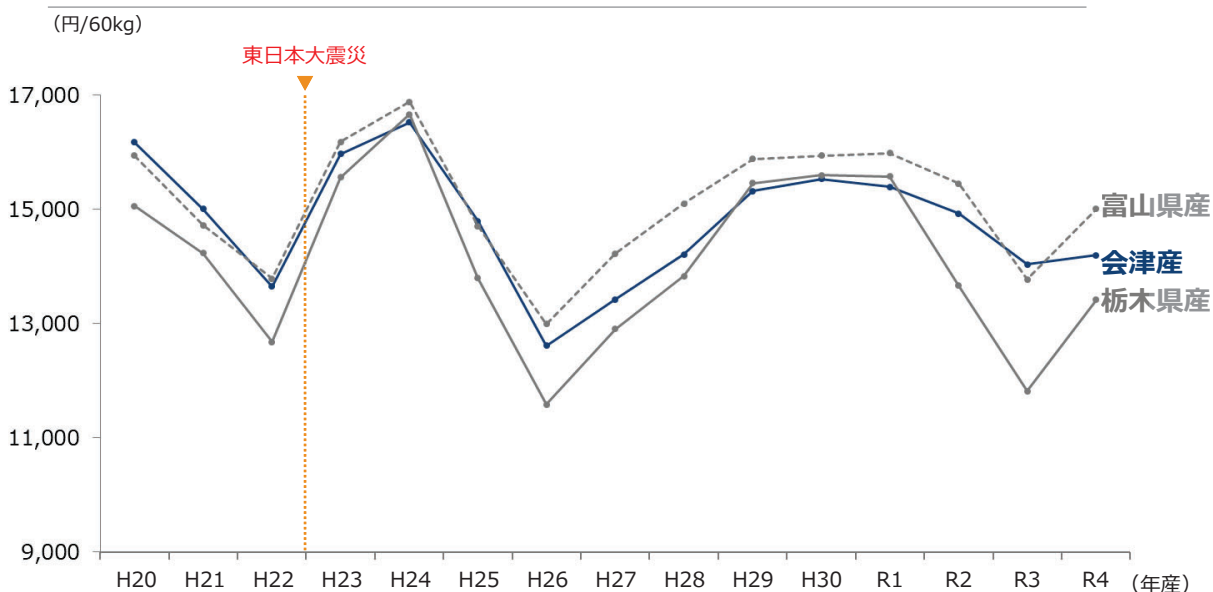
データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

215

福島県産米の相対取引価格動向 ⑤富山県産・栃木県産コシヒカリとの比較

会津産コシヒカリは、震災後富山県産コシヒカリと価格ポジションが逆転した。令和3年産は富山県産より上位になったが、令和4年産は再び富山県産より下位に位置している。また、栃木県産より概ね上位に位置している。

会津産コシヒカリと富山県産・栃木県産コシヒカリの相対取引価格推移



※令和4年産は出回りから令和4年11月までの平均価格。

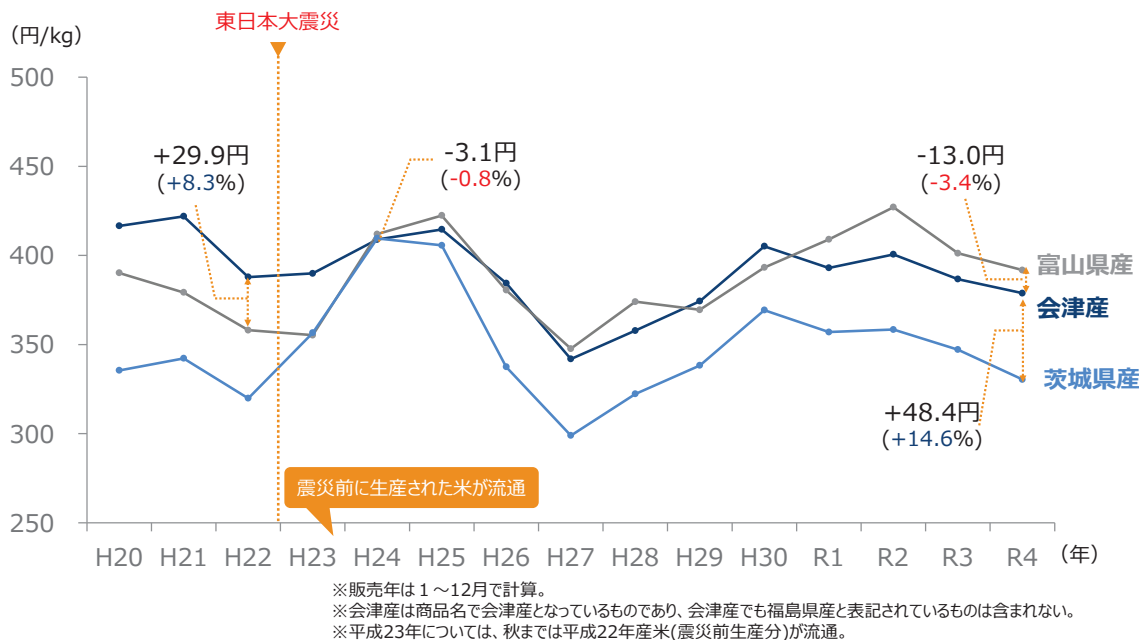
データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

216

小売業者の取扱状況 店頭価格の推移(POSデータ分析)

会津産コシヒカリは、平成29・30年において富山県産コシヒカリより高い店頭価格で販売したが、令和元年に富山県産コシヒカリを再び下回っている。会津産コシヒカリは、平成24・25年を除き、茨城県産より10%程度高い価格を維持している。

会津産・富山県産コシヒカリの店頭価格の比較



データ出所：(公財)流通経済研究所「NPI Report POSデータ」(全国約400店のスーパーマーケットのデータ)

217

小売業者の取扱状況 小売店における付加価値率の推移(POSデータ分析)

会津産コシヒカリは、震災前後での小売店における相対価格比率(相対取引価格/店頭価格)に大きな変化はなく、他県産同様、相対取引価格と連動した店頭価格となっている。

小売店における主要産地のコシヒカリの付加価値率の推移

販売年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
(参考：主な生産年)	H19産	H20産	H21産	H22産	H23産	H24産	H25産	H26産	H27産	H28産	H29産	H30産	R1産	R2産	R3産
福島(中通り産) 相対取引価格	258	280	262	231	263	294	239	182	223	257	285	286	285	245	204
福島 コシヒカリ 店頭価格	355	363	344	342	366	362	324	0	0	0	0	0	0	0	0
相対価格比率	72.6%	77.1%	76.2%	67.6%	71.7%	81.1%	73.8%	-	-	-	-	-	-	-	-
福島(会津産) 相対取引価格	277	299	278	253	296	306	274	234	249	263	284	288	285	276	260
会津 コシヒカリ 店頭価格	417	422	388	390	409	415	384	342	358	374	405	393	401	387	379
相対価格比率	66.4%	71.0%	71.6%	64.8%	72.3%	73.8%	71.3%	68.3%	69.5%	70.4%	70.1%	73.2%	71.1%	71.5%	68.6%
茨城 相対取引価格	255	283	266	242	293	309	252	216	234	255	283	288	287	247	212
茨城 コシヒカリ 店頭価格	335	342	320	357	410	406	337	299	322	338	369	357	358	347	330
相対価格比率	76.1%	82.7%	83.3%	67.9%	71.4%	76.2%	74.8%	72.3%	72.7%	75.5%	76.7%	80.6%	80.1%	71.1%	64.0%
千葉 相対取引価格	262	278	266	239	293	313	250	213	232	254	278	287	291	250	211
千葉 コシヒカリ 店頭価格	347	347	345	349	382	374	323	305	339	358	365	382	378	351	344
相対価格比率	75.4%	80.1%	77.0%	68.4%	76.6%	83.6%	77.3%	70.0%	68.5%	71.0%	76.3%	75.2%	77.0%	71.3%	61.4%
新潟(魚沼以外) 相対取引価格	304	318	302	290	341	339	309	286	300	300	313	316	322	305	289
新潟 コシヒカリ 店頭価格	422	415	389	404	443	427	388	381	418	426	438	461	460	430	428
相対価格比率	72.0%	76.7%	77.6%	71.8%	76.9%	79.4%	79.8%	75.0%	71.8%	70.3%	71.6%	68.5%	70.0%	71.1%	67.4%
富山 相対取引価格	275	295	273	255	300	313	272	241	263	280	294	295	296	286	255
富山 コシヒカリ 店頭価格	390	379	358	355	412	422	381	348	374	369	393	409	427	401	392
相対価格比率	70.5%	77.8%	76.1%	71.9%	72.7%	74.0%	71.6%	69.2%	70.4%	75.8%	74.8%	72.2%	69.3%	71.3%	65.1%
平均相対価格比率	72.2%	77.6%	77.0%	68.7%	73.6%	78.0%	74.8%	71.0%	70.6%	72.6%	73.9%	73.9%	73.5%	71.2%	65.3%

データ出所：(公財)流通経済研究所「NPI Report POSデータ」(全国約700店のスーパーマーケットのデータ)、農林水産省「相対取引価格データ」
※「新潟(魚沼以外)」については、新潟県産コシヒカリ(一般)の数値を使用。
※店頭価格の会津産コシヒカリは商品名で会津産となっているものであり、会津産でも福島県産と表記されているものは福島県産コシヒカリに含まれている。
※相対取引価格は各年度における玄米60kgの平均価格を54で除して精米1kgの価格に換算。
店頭価格は翌年1～12月に販売された同銘柄における精米1kgの平均価格。
※福島県産コシヒカリはデータ対象店舗において平成27年から平成30年まで取扱い実績無し。
※1店舗あたりのアイテム数が0.1を下回る銘柄については除外した。(令和元年～令和4年の福島県産コシヒカリ)

218

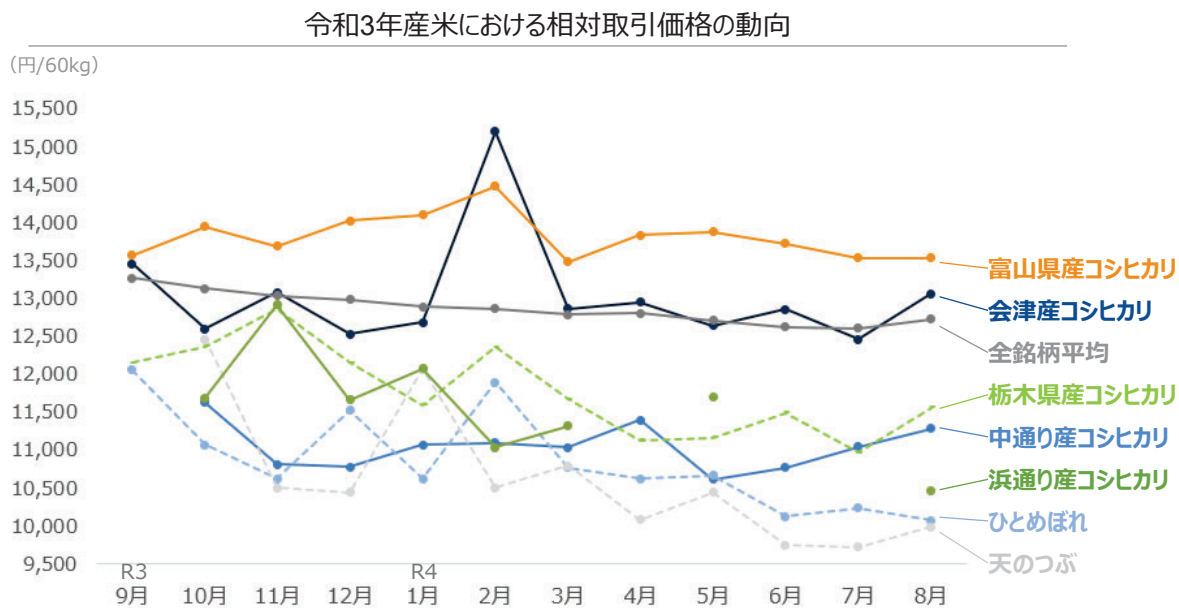
価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産米の価格形成に関する分析を実施した。

概要	
概要・目的	・ヒアリング等により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 ・他県産の同品目についても調査のうえ比較分析を行う。
対象商品	・福島県産米(令和3年産)：福島県産コシヒカリ(中通り産・浜通り産コシヒカリ)・会津産コシヒカリ ※補足的に天のつぶのデータを取得 ・他県産米：栃木県産コシヒカリ・富山県産コシヒカリ
対象期間	・データ取得回数：3回 (令和3年10月～令和4年9月までの令和3年産取扱時期のうち3時点)
調査ルート	・下記の流通ルートそれぞれを調査。(栃木県産米・富山県産米も調査) - ルート①：生産者→県内 J A 全農→県内外卸売業者等→小売業者等 - ルート②：生産者→ J A 単協・集出荷業者等→県内外卸売業者等→小売業者等

219

価格形成に関する事例調査(追跡調査) ～前提となる令和3年産米における相対取引価格の動向

令和3年産米の価格について、会津産コシヒカリを除く福島県産米の取引価格は、令和4年8月時点で、全銘柄平均・富山県産コシヒカリ・栃木県産コシヒカリを下回っている。



データ出所：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

※データがない箇所については、当該月の相対取引契約がなかったもの、又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わなかったもの。

220

流通ルート別・エリア別の調査実施件数は下記のとおり。

調査対象流通ルート							
県産	流通類型	産地品種銘柄	ルート数 完了数(アプローチ数)	エリア別※			
				合計	県内	首都圏	その他
福島県	①(全農経由)	福島県産コシヒカリ	6 (8)	8	4	3	1
		会津産コシヒカリ	5 (5)	5	4	1	0
		ひとめぼれ	1 (1)	1	0	1	0
		天のつづ	2 (3)	3	2	0	1
	②(単協・集荷業者直販経由)	福島県産コシヒカリ	2 (6)	6	0	6	0
		会津産コシヒカリ	10 (10)	10	8	2	0
		天のつづ	3 (3)	3	0	0	3
栃木県	(全農経由)	栃木県産コシヒカリ	7 (10)	10	3	2	5
富山県	①(全農経由)	富山県産コシヒカリ	3 (3)	3	0	0	3
	②(単協・集荷業者直販経由)	富山県産コシヒカリ	3 (3)	3	0	0	3

※エリア別の項目の定義は、それぞれ以下の通り。

県内：福島県内で展開している量販店 首都圏：首都圏のみ展開している量販店 その他：北海道・東海圏で展開している量販店

221

価格形成に関する事例調査(追跡調査) の実施方法詳細

本調査は下記の方法で実施した。

ルート収集	- いずれのルートにおいても卸問売買(転送)は想定せず、産地からの出荷を行う段階を「集出荷業者」、精米にして実需に販売する段階を「卸売業者」とした。 - ルート②において、集出荷業者と卸売業者に相当する事業者が同一の場合、集荷した米を玄米のまま実需に販売する事業者は「集出荷業者」、精米して販売する事業者は「卸売業者」として集計した。
データ収集	- 玄米で取り扱う流通事業者においては、玄米60kgの取引価格を取得した。 - 一部、集出荷業者に直接自社便で取りに行くため運賃が含まれていない取引も存在する。 - 同時期・同一ロットの最終商品に同一ルートの複数仕入先から仕入れた米を使用している場合、当該月・当該ルートにおける仕入価格の平均値を取得した。 - 小売業者においては、原則 5 kg袋の価格データを取得した。 - 一部、2 kg袋、10kg袋の取扱いのみのルートについては、取扱商品のデータを取得し、5 kg換算した。 - いずれも特売ではない通常価格のデータを取得した。
データ処理	- いずれの段階のデータも精米 1 kg単価に換算して分析を行った。 - 玄米60kgの価格は精米54kgの価格とした。 - 各流通ルートにおいて、小売業者の販売価格を100とした際の集出荷業者及び卸売業者の販売価格を計算し、ルートごと・実需種ごとに平均を算出した。 - 収集したデータのうち、以下の定義に該当するデータは外れ値として除外した上で分析を行った。 - 卸の販売額-卸の仕入額、実需の販売額-実需の仕入額の値がマイナス(=赤字)or 0 になるもの - サンプルごとに上記数式にて値を算出し、Excelの箱ひげ図グラフを作成。その上で、特異ポイントとなった値(特異ポイント：四分位範囲の1.5倍を超えた値)

222

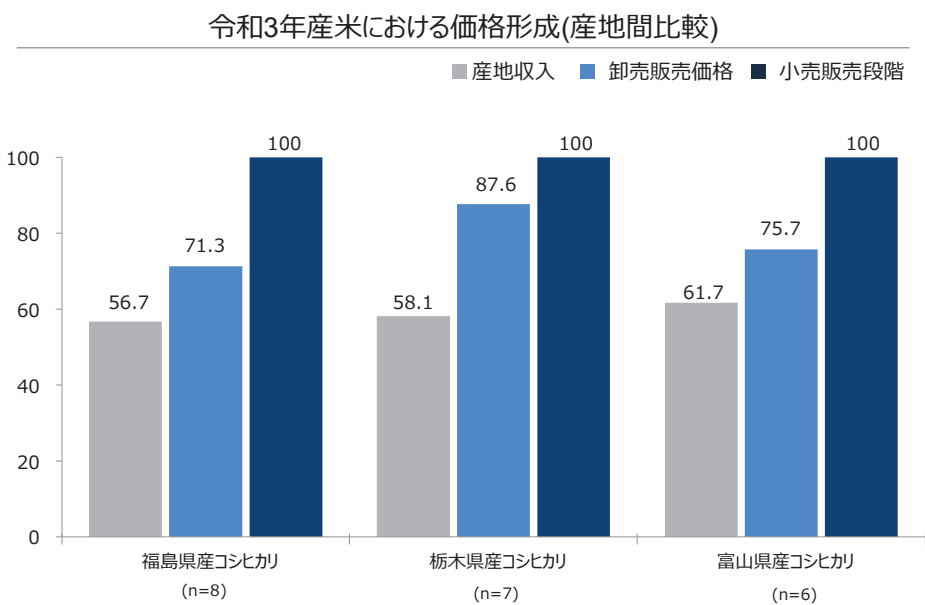
対象事例の平均小売販売価格(量販店)は、富山県産コシヒカリが最も高く、次いで栃木県産コシヒカリ、会津産コシヒカリが高い結果となった。

調査対象ルートにおける平均販売価格(令和3年産)		
産地品種銘柄	流通類型	平均販売価格
会津産コシヒカリ	①(全農経由)	367.2
	②(単協/集荷業者直販)	367.2
	全類型平均	367.2
富山県産コシヒカリ	①(全農経由)	403.3
	②(単協/集荷業者直販)	403.3
	全類型平均	403.3
栃木県産コシヒカリ	①(全農経由)	387.7
	全類型平均	387.7
福島県産コシヒカリ	①(全農経由)	340.2
	②(単協/集荷業者直販)	436.0
	全類型平均	364.2
福島県産天のつば	①(全農経由)	276.0
	②(単協/集荷業者直販)	316.0
	全類型平均	300.0

※数値は該当する種別で取得したサンプルの算術平均値。
※「福島県産コシヒカリ」として標記されて販売されるものは「中通り産」「浜通り産」が中心。

(単位：円/kg)

福島県産コシヒカリと、栃木県産米や富山県産米との比較において、産地・卸売・小売の各流通段階における価格形成に明確な違いは見られなかった。

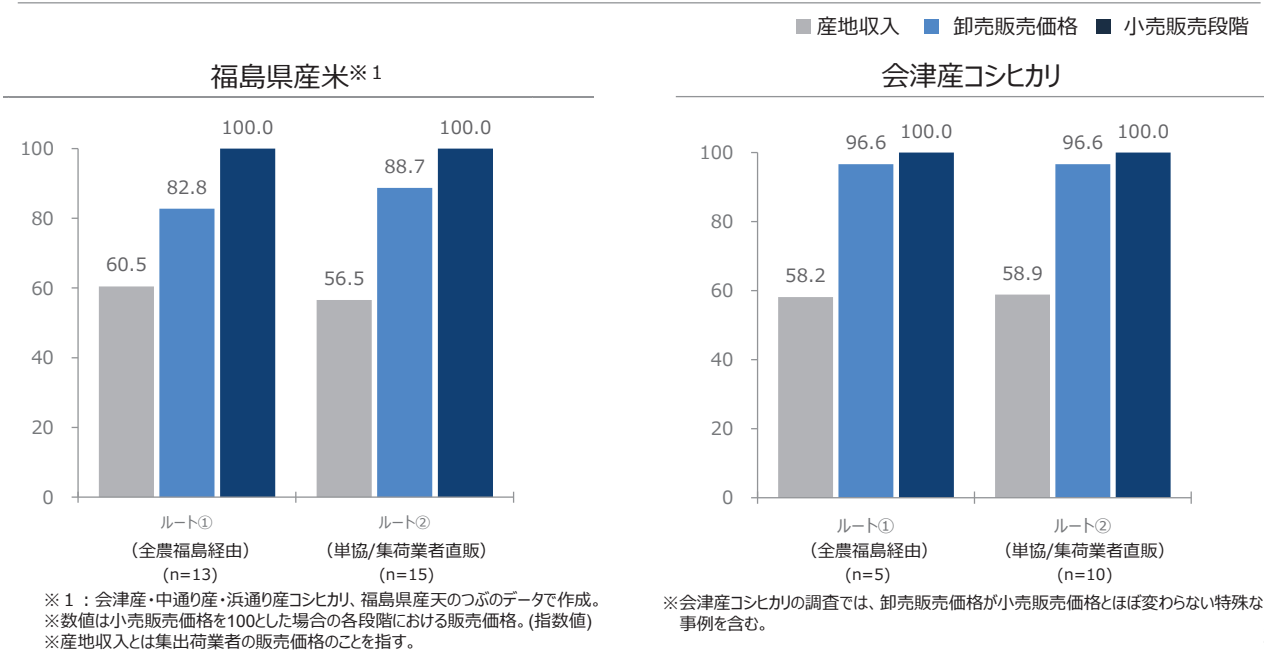


※数値は小売販売価格を100とした場合の各段階における販売価格。(指数値)
※産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。

価格形成に関する事例調査(追跡調査) ～結果③ 流通ルート別の傾向

流通ルート別で見ると、会津産コシヒカリを除いて、ルート②は自社集荷して販売し、全体的な単価が低い事例も含まれていることから、相対的に産地収入がやや低い状況。

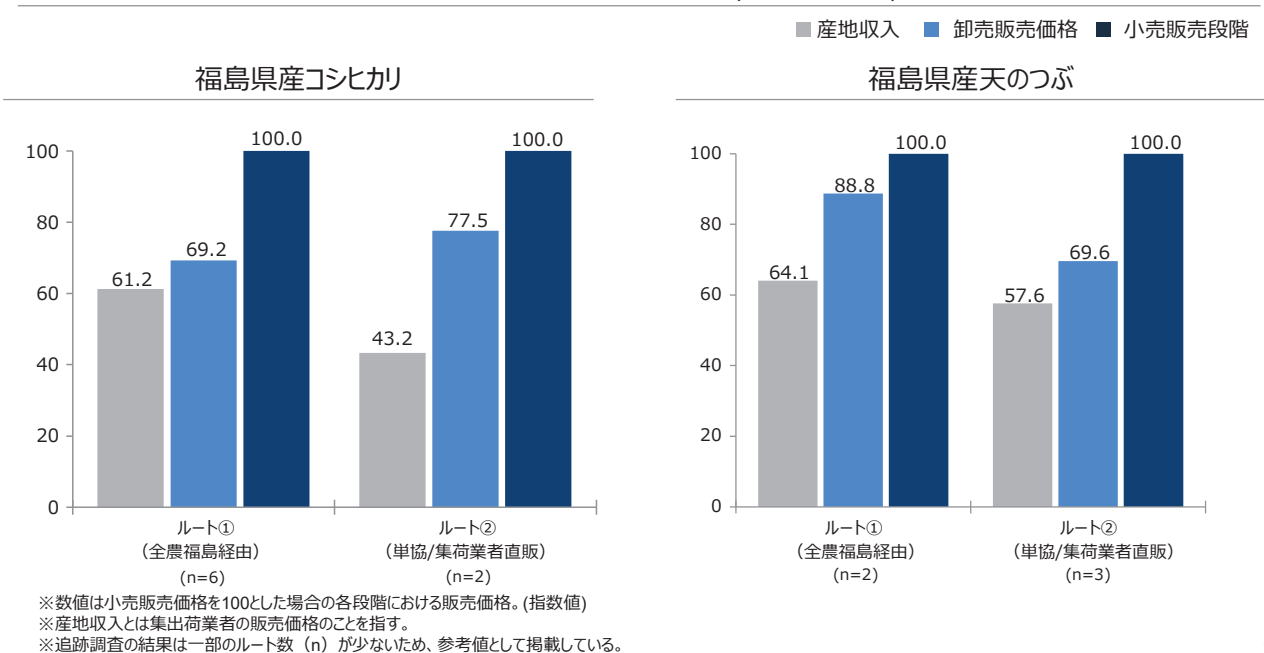
令和3年産米における価格形成(流通ルート別)



価格形成に関する事例調査(追跡調査) ～結果③ 流通ルート別の傾向

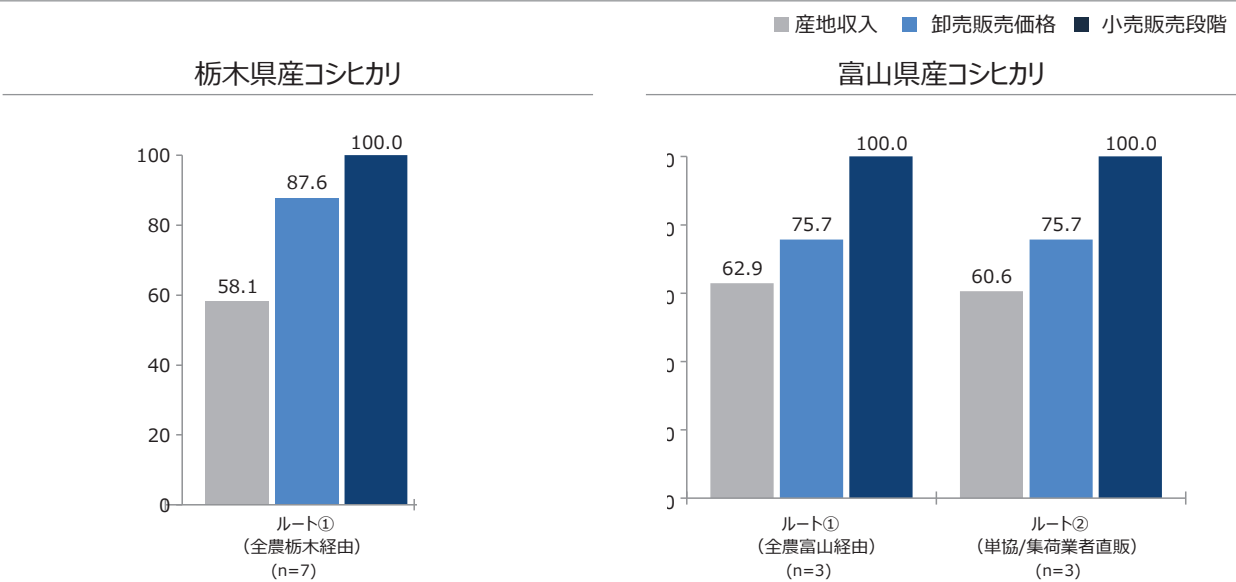
(前ページからの) 流通ルート別比較の続き。

令和3年産米における価格形成(流通ルート別)



栃木県産コシヒカリや富山県産コシヒカリにおいて、産地・卸売・小売の各流通段階における価格形成に明確な違いは見られなかった。

令和3年産米における価格形成(流通ルート別)



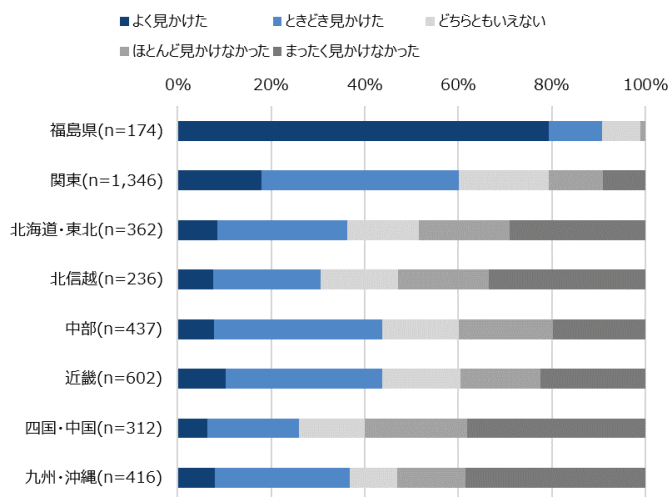
※数値は小売販売価格を100とした場合の各段階における販売価格。(指数値)
※産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。
※追跡調査の結果は一部のルート数 (n) が少ないため、参考値として掲載している。

5. 福島県産品に対する認識

福島県産米を見た経験と購買経験（消費者アンケート）

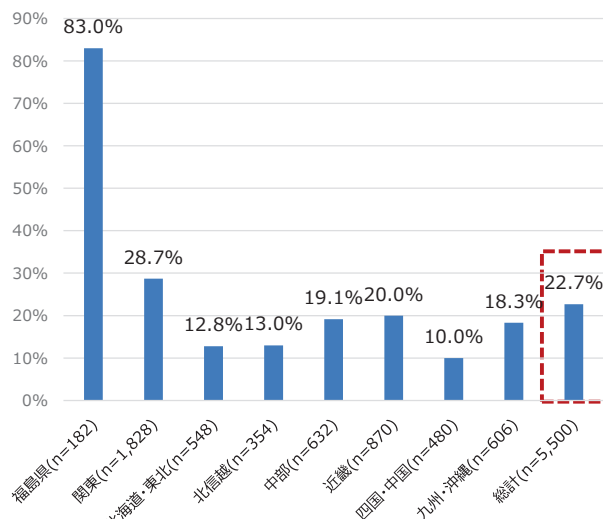
福島県産米をよく見かけた人の割合は、福島県で高く、他の地域では20%に満たない。福島県産米を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では22.7%であった。

福島県産米を店頭で見たか



※過去1～2年に、店頭で福島県産米を見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産米の購買経験率



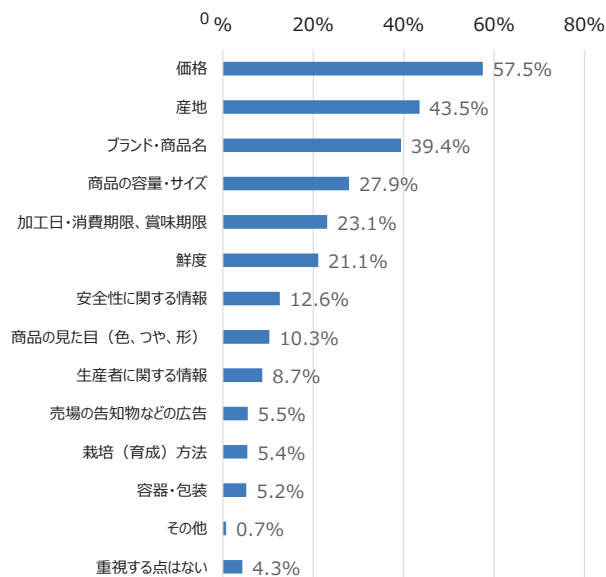
※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購買経験なしとなる。

229

米購買時の重視点と購買者の評価（消費者アンケート）

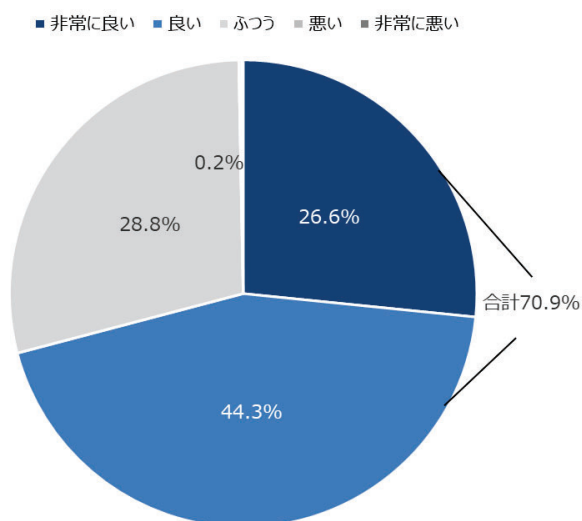
福島県産に限らず、米購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「産地」と「ブランド・商品名」があがった。福島県産米の購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が70.9%であった。

米購買時の重視点（n=2,539、複数回答）



※米購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上米を購買している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産米購買者の評価（n=1,246）



※福島県産米を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

230